

科目名	行政学 II	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			総合政策学部	□必修 ■選択	
			学部	□必修 □選択	
英文表記 独文表記	Public Administration II Verwaltungswissenschaft II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	てらさこ ごう	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	寺迫 剛	実施方法	□対面のみ □遠隔のみ ■対面・遠隔併用		
授業のテーマ	そもそも行政とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」（片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部）であることを、本講義を通じて認識し、行政（学）についての理解を深めることを行政学Ⅰのテーマとしてきました。 行政学Ⅱでは引き続き、行政（学）についての理解を深めていき、公務員を目指す人も、目指さない人も、行政を通じて皆さん一人一人がかけがえなく結びついていること、だからこそ共に暮らす社会もかけがえのないことを学びます。				
到達目標	①行政（学）についての理論的知識を習得し、 ②日本の行政（学）の発展経路と現状について理解するとともに、 ③諸外国との比較の視点を獲得することにより、 ④行政とは、寛容性をもって人々が協働する集合的営為であり、一人一人がその構成員であるという認識を涵養することを目指します。				
授業概要	行政(学)の理論的な「しくみ」について講義し、日本における行政(学)の受容と発展の経路について論じ、さらに諸外国における行政（学）との比較考察にも取り組みます。				
授業計画					
第1回	イントロダクション：そもそも行政（学）とは				
第2回	行政学の発展①：行政学（Verwaltungswissenschaft(en））前史（行政学のルーツ） ・ドイツの官房学（Kameralismus）／警察学（Polizeiwissenschaft）について理解する				
第3回	行政学の発展②：行政学の発祥 ・ウィルソン（W.Wilson）は理想主義か？現実主義者か？について理解する				
第4回	行政学の発展③：政治行政二分論から政治行政融合論へ ・政治と行政は分けられるのか否か？正統派行政学が直面した行政国家化の現実について理解する				
第5回	日本における行政学の発展① ・日本における行政学受容の系譜について理解する				
第6回	日本における行政学の発展② ・官僚制優位論と政党優位論の相克を超えて理解する				
第7回	行政国家のマネジメントとガバナンス① ・政策科学／政策過程論の理論と実際（PPBS、ZBB、EBPM）について理解する				
第8回	行政国家のマネジメントとガバナンス② ・福祉国家論と行政改革のアプローチ（NPMとPPP）について理解する				
第9回	日本における行政のマネジメントとガバナンス① ・公務員制度：組織管理と人事管理について理解する				
第10回	日本における行政のマネジメントとガバナンス② ・財政制度：予算と決算について理解する				
第11回	行政の民主的統制① ・二重の本人・代理人論／FF論争／公文書管理と情報公開について理解する				
第12回	行政の民主的統制② ・議院内閣制と二代表制：衆議院と参議院／秋田県知事と秋田市長について理解する				
第13回	行政の事例① ・阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨、秋田県豪雨、能登地震が突き付ける行政の課題				
第14回	行政の事例② ・トランプ現象が闊歩する世界における日々の行政について理解する				

第 15 回	本講義のまとめ：結局のところ、行政（学）とは	
第 16 回	定期試験	
授業時間外の学習	文部科学省の大学設置基準第 21 条に基づき、 予習 2 時間：講義のテーマに関する情報に積極的に接し、疑問点および現時点での考えをまとめておく。 復習 2 時間：講義を踏まえ、レジュメ等を基に、各自オリジナルのノート（A4 版 1 頁程度）をまとめる。	
履修条件 受講のルール	カリキュラムの規定のとおりです。行政学Ⅰと行政学Ⅱは、どちらを先に履修しても大丈夫です。	
テキスト	『行政学』西岡晋・廣川嘉裕編（文眞堂、2021） 『比較行政学入門』ザビーネ・クールマン、ヘルムート・ヴォルマン（成文堂、2021） 『テキストブック地方自治の論点』宇野二郎・長野基・山崎幹根（ミネルヴァ書房、2022） 『ダイバーシティ時代の行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2016）	
参考文献・資料	『行政入門』ステラ・Z・セオドゥールー、ラビ・K・ロイ著、石見豊翻訳（芦書房、2024） 『コロナ化した世界』岩崎正洋編（勁草書房、2024） 『質的比較分析（QCA）』パトリック・A・メロ著、東伸一・横山斉理訳（千倉書房、2023） 『行政学［新版］』曾我謙悟（有斐閣アルマ、2022） 『はじめての行政学［新版］』（伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔、有斐閣ストュディア、2022） 『現代官僚制の解剖』（北村亘、有斐閣、2022） 『政府間関係の多国間比較』秋月謙吾・城戸英樹編（慈学社、2021） 『議会制民主主義の揺らぎ』岩崎正洋編（勁草書房、2021） 『日本型福祉国家再編の言説政治と官僚制』西岡晋（ナカニシヤ出版、2021） 『住民投票の全て』今井一編（『国民投票／住民投票』情報室、2021） 『関係人口の社会学—人口減少時代の地域再生』田中輝美（大阪大学出版会、2021） 『非正規公務員のリアル』上林陽治（日本評論社、2021） 『Verwaltung und Verwaltungswissenschaft in Deutschland』Jörg Bogumil und Werner Jann（Springer VS, 2020） 『行政学［新版］』真淵勝（有斐閣、2020） 『行政学の基礎』風間規男編著、岡本三彦、中沼丈晃、上崎哉（一藝社、2019） 『日本の地方政府』曾我謙悟（中公新書、2019） 『官僚制と公文書』新藤宗幸（ちくま新書、2019） 『原発災害で自治体ができたこと、できなかったこと—自治体の可能性と限界を考える』今井照編（公人の友社、2019） 『明るい公務員講座 管理職のオキテ』岡本全勝（時事通信社、2019） 『政と官の五十年』村松岐夫（第一法規、2018） 『行政学講義』金井利之（ちくま新書、2018） 『明るい公務員講座』岡本全勝（時事通信社、2017） 『行政学』原田久（法律文化社、2016） 『行政学［第 2 版］』外山公美編（弘文堂、2016）、『比較政治学入門』岩崎正洋（勁草書房、2015） 『雇用連帯社会』井手英策編（岩波書店、2011） 『コレク行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2007） 『都市の再生を考える〈第 1 巻〉都市とは何か』植田和弘・西村幸夫など編（岩波書店、2005） 『Politics in Time: History, Institutions, and Social Analysis』Paul Pierson, (Princeton University Press, 2004) 『新制度論』B・ガイ・ピーターズ著（土屋光芳訳）（芦書房、2007） 『Veto Players: How Political Institutions Work』George Tsebelis（Princeton University Press、2002） 『行政学［新版］』西尾勝（有斐閣、2001） 『国民と行政』片岡寛光（早稲田大学出版部、1990）	
成績評価の方法	期末試験の成績に基づきつつ、講義への参加状況も踏まえ、総合的に評価します。 ※ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。	
オフィスアワー	水曜日 4 限および木曜日 4 限	
成績評価基準	期末試験 55%、小レポート 15%、平常点を含む講義への参加度 35% 秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)	
実務経験及び実務を活かした授業内容	—	
学生へのメッセージ	公務員を目指す人も、迷っている人も、むしろイヤな人も、誰もが楽しい講義です、 なぜなら、行政（学）が対象とするのは、私達みんなであり、 行政において最も忘れてはならない大切なことは、「誰も見捨て（られ）ない」ことだからです。	